

平成30年度 消費者庁の子どもの事故防止の取組実績

平成30年度
子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議
平成31年3月26日

平成30年度の子どもの事故防止の取組実績①

個別テーマの注意喚起記者公表

- ・「海、川、湖沼池、プール等での「水の事故」に気を付けましょー平成30年度「子どもの事故防止週間」を5月21日から実施しますー」（平成30年5月9日）
- ・「子どもを乗せた「幼児用座席付自転車の事故」（転倒など）に気を付けましょー平成30年度「子どもの事故防止週間」を5月21日から実施しますー」（同日）
- ・「カプセル入りスポンジ玩具が幼児の体内に入る事故が発生！一原因不明の不調が約4か月続き、その後、全身麻酔で摘出ー」（平成31年2月15日）



カプセル入りスポンジ玩具が幼児の体内に入る事故が発生！
一原因不明の不調が約4か月続き、その後、全身麻酔で摘出ー

カプセル入りスポンジ玩具（以下「当該玩具」という）は、ゼラチンでできた小さなカプセルの中にスポンジが圧縮されて入り、水やぬるま湯にカプセルをつけるとゼラチンが溶けて、中の恐竜、果物、動物などの形をしたスポンジが出てくる玩具です。

2018年12月、以下のとおり、消費者安全法（平成21年法律第50号）に基づき消費生活センターから消費者庁に生命・身体被害に関する重大事故等として当該玩具に関する通知がされました。

入浴中、保護者の知らない間に当該玩具が4歳女児の³²腔に入り、不調が続いたものの医療機関で原因の特定に約4か月、当該玩具の摘出までに更に約1か月と時間を要

メディア報道、関係府省庁や
地方公共団体等による周知

子どもを事故から守る！ ツイッター、子ども安全メール （ツイッター121回、メール49回発信 ※平成31年3月20日現在）

＜下記のテーマで発信＞

- ・ 注意喚起記者公表連動
- ・ 季節的な発生傾向がある事故
- ・ 発生頻度が高い事故
- ・ 関係府省庁の取組 等



関係府省庁や
地方公共団体等の
ツイッターリツイート

子どもの保護者、教育・保育関係者 等

子どもを事故から守る！ 事故防止ハンドブック

平成29年4月の発刊後、約18万部を地方公共団体を中心に配布
（平成31年3月現在）



地方公共団体等での
活用・配布
・幼稚園や保育園での配布
・育児相談時の活用 等

平成30年度の子どもの事故防止の取組実績②

個別事故テーマでの注意喚起 記者公表事例の紹介

【事例】

カプセル入リスポンジ玩具が幼児の体内に入る事故が発生！
—原因不明の不調が約4か月続き、その後、全身麻酔で摘出—（平成31年2月）

1 概要

入浴中、保護者の知らない間にカプセル入リスポンジ玩具が4歳
女児の腔に入り、不調が続いたものの医療機関で原因の特定に約
4か月、当該玩具の摘出までに更に約1か月を要した事例

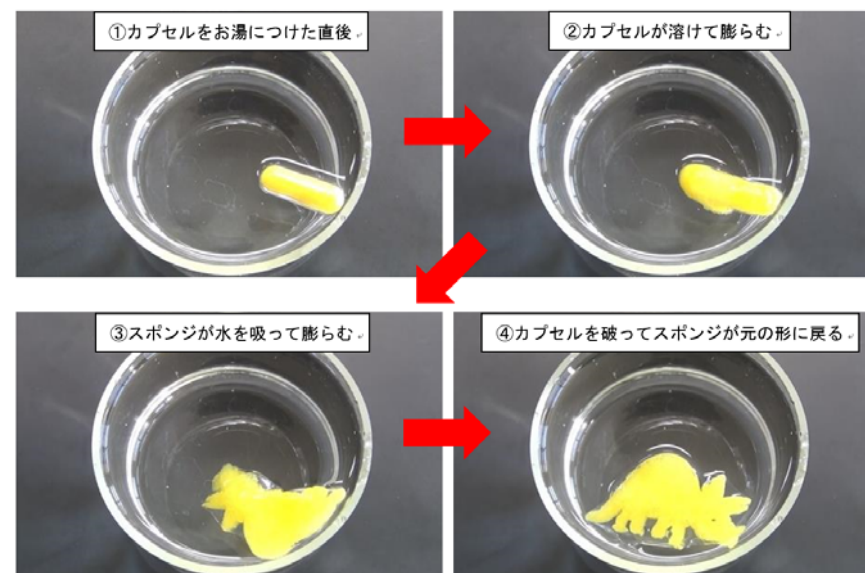


2 消費者庁の対応

消費者安全法第38条第1項の規定に基づき注意喚起を消費者庁が公表するとともに、都道府県及び市町村に提供し、周知した。

3 注意喚起内容

- 大人の目の届くところで遊ばせる
- 子どもの手の届かないところでの保管
- 口、鼻又は耳に入れないように注意
- 体内に入った時には、早期に医療機関の受診



写真提供：国民生活センター

平成30年度の子どもの事故防止の取組実績③- 1

SNSやメールで、消費者（保護者）への直接的な情報発信

「子どもを事故から守る！公式 Twitter」

14歳以下の子どもの保護者を対象に、消費者庁だけでなく、各府省庁の子どもの事故に関する情報を発信



「子ども安全メールfrom消費者庁」(平成22年9月から継続)

主に6歳以下の未就学児の保護者を対象に、事故防止のポイントを毎週1回(原則木曜日)配信。



＜平成30 年4月～平成31年3月20日現在の発信テーマとツイッターリツイート(RT)＞

	子どもツイッターテーマ ※RT(RT)を含む	子ども安全メール タイトル	備考
1	ニラとスイセンの違い	—	
2	宴席中のお酒の誤飲等	同左	
3	RT(消費者庁 注意！有毒植物)	—	
4	ジャガイモの天然毒素	—	
5	ハンドスピナーの部品の誤飲	同左	
6	玩具誤飲	—	
7	公園の遊具	同左	
8	マグネットボール誤飲	—	
9	防犯ブザーの乾電池	—	
10	RT(消費者庁 プール事故)	—	
11	RT(消費者庁 生命身体事故等)	—	
12	RT(消費者庁 沖縄国際映画祭 参加)	—	
13	救命講習を受講	同左	
14	日本小児科学会「Injury Alert」	—	
15	RT(消費者庁 食品の注意点)	—	
16	RT(農水省 バーベキュー食中毒)	—	
17	次世代育成支援イベント「おぎやと21」(徳島市)	—	
18	防犯ブザーの乾電池が破裂	—	
19	チャイルドシートの使用義務	—	
20	次世代育成支援イベント「おぎやと21」(徳島市)	—	
21	RT(内閣府 新1年生交通事故)	—	
22	次世代育成支援イベント「おぎやと21」(徳島市)	—	
23	子どもの事故防止週間！	同左	
24	RT(内閣府 秋元才加とJOYのWeekly Japan!!)	—	
25	RT(消費者庁 食品の注意点)	—	
26	水の事故	同左	
27	テレビ 子どもの事故防止特集！	—	
28	溺れたり流されたら浮いて待て！	—	
29	ライフジャケットの活用	—	
30	プールでの注意	—	
31	幼児用座席付自転車の転倒	同左	
32	池袋保健所子ども事故予防センター	—	
33	子どもの事故防止週間	—	
34	RT(海保 ライフジャケットを着よう！)	—	
35	RT(海保 スノーケル使用中事故)	—	
36	幼児用座席付自転車	—	
37	子どもの事故防止調査①	—	
38	子どもの事故防止調査②	—	
39	幼児用座席付自転車	—	
40	RT(海保 子どもの事故防止週間)	—	
41	幼児用座席付自転車	—	
42	幼児用座席付自転車	—	
43	RT(内閣府 教育・保育施設等における事故報告集計)	—	

子どもの事故防止週間

	子どもツイッターテーマ ※RT(RT)を含む	子ども安全メール タイトル	備考
44	RT(消費者庁 刈払機の事故)	—	
45	RT(消費者庁 刈払機の事故)	—	
46	草刈中事故	同左	
47	RT(消費者庁 刈払機)	—	
48	ぬれた場所転倒	同左	
49	RT(消費者庁 消費者白書公表)	—	
50	消費者白書特集	—	
51	RT(消費者庁 食品の注意点)	同左	
52	RT(内閣府 機械式立体駐車場)	同左	
53	RT(イクメン侍「事故防止ハンドブック」)	—	
54	機械式立体駐車場	—	
55	雨天増水時	同左	
56	RT(農水省 ジャガイモの皮)	—	
57	河川水難事故防止週間	—	
58	RT(消費者ホットライン188)	—	
59	子どもの事故防止クイズ	同左	
60	RT(消費者庁 こどもが関心する学デー)	—	
61	RT(内閣府 カセットこんろ)	—	
62	RT(消費者庁 夏休み親子イベント)	—	
63	縁日玩具等	—	
64	縁日玩具等	同左	
65	縁日玩具等	—	
66	RT(消費者庁 豪雨 消費者トラブル)	—	
67	RT(消費者庁 食品の注意点)	同左	
68	RT(内閣府 熱中症予防)	—	
69	ライフジャケット	—	
70	RT(消費者庁 電池の事故)	—	
71	RT(海保 ウォーターセーフティガイド)	—	
72	RT(海保 海水浴の事故)	—	
73	RT(消費者庁 夏休み親子イベント)	—	
74	電池の事故	同左	
75	事故防止ハンドブックの英語・中国語	—	
76	ベビーカーのエスカレーター利用	同左	
77	夏休み親子イベント	—	
78	RT(厚労省 ハチミツ)	—	
79	RT(厚労省 肉焼き具合)	—	
80	RT(内閣府 自転車同乗)	—	
81	帰省先事故	同左	
82	RT(海保 幼児の事故)	—	
83	阿波踊りにアブナイカモ登場	—	
84	RT(消費者庁 ダイソー筆箱)	—	
85	熱中症	同左	
86	RT(海保 海水浴で事故)	—	

平成30年度の子どもの事故防止の取組実績③-2

SNSやメールで、消費者（保護者）への直接的な情報発信

＜平成30年4月～平成31年3月20日現在の発信テーマとツイッターリツイート(RT)＞

	子どもツイッターテーマ ※RT(RT)を含む	子ども安全メール タイトル	備考
87	RT(海保 水上オートバイと衝突)	—	
88	車内に子どもだけを残さない	同左	
89	ライフジャケット	同左	
90	救急医療機関です	同左	
91	抱っこひもからの転落	同左	
92	ペダルなし二輪遊具	—	
93	キッズデザイン賞をご存知ですか？	同左	
94	歯ブラシ等の喉突き事故	同左	
95	乳児が誤飲	同左	
96	RT(内閣府 子供の窒息事故)	—	
97	RT(内閣府 子どもの窒息事故)	—	
98	乗り物遊具	同左	
99	蜂蜜	同左	
100	仮装用品の皮膚トラブル	同左	
101	乳幼児突然死症候群(SIDS)	同左	
102	スポーツ施設や遊戯施設でのけが	同左	
103	製品安全総点検月間	同左	
104	名古屋市消費生活フェア☆2018	—	
105	チャイルドシート	同左	
106	石けんや洗剤など	同左	
107	ストーブ、ヒーター等でのやけど	同左	
108	クリスマスの飾り	同左	
109	ノロウイルス感染	同左	
110	餅による窒息	同左	
111	お風呂での溺水	同左	
112	暖房器具	同左	
113	エア遊具	同左	
114	豆まき	同左	
115	温浴施設での転倒事故	同左	
116	電気ポット	同左	
117	カプセル入リスボンジ玩具	同左	
118	ひな人形の飾りや部品	同左	
119	ベッド転落	同左	
120	ブラインドのひも	同左	
121	自動ドア	同左	



子どもを事故から守る！ツイッターの例



Vol.442 大人用ベッドやソファなどからの転落に注意！

消費者庁には、大人用ベッドやソファなどの上でおむつ替えや着せ替えをしている時に子どもが転落したという事故情報が医療機関（※）から寄せられています。

「高さ60cmほどの大人用ベッドの上で子どものおむつを替えた。保護者がおむつを替えるため、目を離した隙にベッドから転落し、頭部を打撲した。」（7か月）

「子どもの服を脱がせるために、高さ60cmほどのソファの上に寝かせた。保護者が窓のカーテンを開けている間にソファから転落し、頭部を打撲し3日間入院した。」（4か月）

消費者庁が事務局で実施した調査では「ベッド、ソファからの転落が子どもに起こるかもしれないと気にしていなかった」と回答した0歳児の保護者の割合は10.0%でした。

「まだ寝返りできないから大丈夫」と思っているも、子どもの発達も早く、それまでできなかったことが急に

消費者安全

- 子どもを事故から守る！事故防止ポータル
- 消費者への注意喚起
- 公表資料
- 事故情報の一元化

子ども安全メールの例

平成30年度の子どもの事故防止の取組実績④

消費者白書で子どもの事故防止を特集

平成30年度消費者白書

第1部 第2章 【特集】子どもの事故防止に向けて

[内容]

- 第1節 子どもの事故を社会全体で防ぐ
- 第2節 子どもの事故状況
- 第3節 子どもの事故防止に関する意識・行動
- 第4節 子どもの事故防止に向けた取組
- 第5節 子どもを安全な環境で育てるために

第2章 【特集】 子どもの事故防止に向けて

人々が安全に暮らすことができる社会の実現は、最も重要な政策課題の一つです。また、未来を担う子どもたちが健やかに育っていくことは社会全体の願いです。

発達段階にある子どもは、身体機能が未熟であるため、事故に遭うと大人よりも危険な状態に陥りやすいという特徴があります。身体への被害が将来に影響を及ぼしたり、命を失うといった事態になれば、子ども本人にとって、保護者を始め子どもの周囲にいる人にとって、そして社会にとって、取り返しのつかない大きな損失になります。

子どもが事故によりなくなるという状況は年々減少していますが、子どもの死因の中ではいまだに事故が上位にあります。事故の発生を防ぎ、万一、事故が発生しても被害を最小限にとどめるために、更に取組を進めていく必要があります。

子どもは日々成長していく。特に乳幼児においては突然死や自然死の動きを始めることがあります。その際、日常生活の中でも思いがけない事故に巻き込まれる点もあり、発達段階に応じて注意すべき点があります。

本章では、事故を社会全体で防ぐという仕組みの考え方を紹介した上で、子どもに起きている事故の状況を概観し、子どもの発達段階に応じて異なる事故の特徴を明らかにします。また、子どもの事故に対する人々の認識、特に、保護者や関係する周囲の人々について、意識調査の結果を用いて紹介します。さらに、事故を防止するための取組について、子どもを安全な環境で育てるために、更に取組を進めていく必要があります。

第1節 子どもの事故を社会全体で防ぐ

子どもの死因の上位は、「不慮の事故」

日本の子ども（以下本章では特に断りがなければ14歳以下を指す。）の死因について、厚生労働省「人口動態統計」により、死亡を含む全ての死因の上位をみると、「不慮の事故」は14歳以下の4つの年齢層のいずれでも4位以内に入っています（図表1-2-1-1）。

41) 厚生労働省「人口動態統計」2016年の「性・年齢別にみた死因別数（死亡数、死亡数（%））」により作成。
42) 「不慮の事故」は「自然死（心臓病、脳血管障害、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系、感染症、悪性新生物、糖尿病、高血圧、肥満、アレルギー、その他）」を除く。
43) 「不慮の事故」は「自然死（心臓病、脳血管障害、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系、感染症、悪性新生物、糖尿病、高血圧、肥満、アレルギー、その他）」を除く。
44) 「不慮の事故」は「自然死（心臓病、脳血管障害、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系、感染症、悪性新生物、糖尿病、高血圧、肥満、アレルギー、その他）」を除く。

図表1-2-1-1 2016年の子どもの死因上位5位

年齢	1位	2位	3位	4位	5位
0歳 (1,928人)	先天性、変形及び染色体異常等 (663人、34.4%)	周産期に特異的な呼吸障害等 (282人、14.6%)	乳幼児突然死症候群 (109人、5.7%)	不慮の事故 (73人、3.8%)	胎児及び新生児の出血性障害等 (67人、3.5%)
1-4歳 (690人)	先天性、変形及び染色体異常等 (150人、21.7%)	不慮の事故 (85人、12.3%)	悪性新生物 (59人、8.6%)	心疾患 (40人、5.8%)	肺炎 (35人、5.1%)
5-9歳 (391人)	悪性新生物 (84人、21.5%)	不慮の事故 (68人、17.4%)	先天性、変形及び染色体異常等 (32人、8.2%)	肺炎 (19人、4.9%)	心疾患 (16人、4.1%)
10-14歳 (440人)	悪性新生物 (95人、21.6%)	自殺 (71人、16.1%)	不慮の事故 (66人、15.0%)	先天性、変形及び染色体異常等 (27人、6.1%)	心疾患 (19人、4.3%)

「不慮の事故」による死亡数は、「0歳」で73人、「1-4歳」で66人、「5-9歳」で68人、「10-14歳」で66人と、合わせて2016年に292人の命が失われています。「1-4歳」「5-9歳」「10-14歳」のそれぞれの年齢層について、死因の1位を比べると、「0歳」では38%であるものの年齢ごとの死亡数としては最も多くなっています。

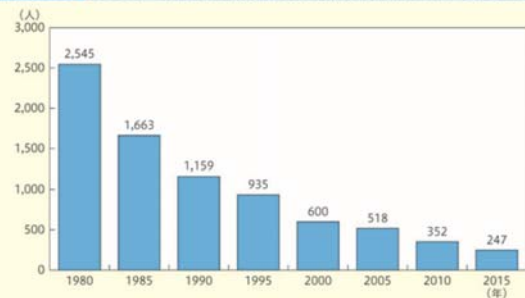
各年齢層における死因1位の「先天性、変形及び染色体異常」や「悪性新生物」に比べれば、「不慮の事故」は対策を講じることで減少させることが期待されています。子どもの死亡を減らすためには、事故を防止することが重要です。

子どもの「不慮の事故（交通事故、自然災害を除く）」による死亡数は、長期的には大幅に減少

子どもの「不慮の事故（交通事故、自然災害を除く）」による死亡数の長期的な推移をみると、1980年の2,545人から減少傾向にあり、2015年には1,247人と35年間で10分の1以下と大幅に減少しています（図表1-2-1-2）。

減少の要因を把握するため、2016年とその35年前である1980年について、子どもの「不慮の事故（交通事故、自然災害を除く）」の死因内訳をみてみます。子どもの「不慮の事故（交通事故、自然災害を除く）」による死亡数は1980年の2,545人から2016年の1,247人と35年間で4分の1以下に減少しています（図表1-2-1-3）。死因内訳でも、全ての項目で減少しており、特に減少

図表1-2-1-2 子どもの「不慮の事故（交通事故、自然災害を除く）」による死亡数の推移



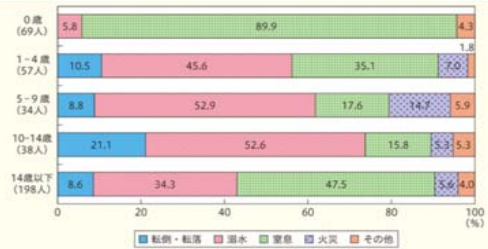
(備考) 1. 厚生労働省「人口動態統計」により作成。
2. 「不慮の事故」(1999年以前は「不慮の事故及び有害作用」)から「交通事故」、「自然死」を除く(1999年以前は「死因」を指す)。

図表1-2-1-1 2016年の子どもの死因上位5位

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳 (1,928人)	先天性、変形及び染色体異常等 (663人、34.4%)	周産期に特異的な呼吸障害等 (282人、14.6%)	乳幼児突然死症候群 (109人、5.7%)	不慮の事故 (73人、3.8%)	胎児及び新生児の出血性障害等 (67人、3.5%)
1-4歳 (690人)	先天性、変形及び染色体異常等 (150人、21.7%)	不慮の事故 (85人、12.3%)	悪性新生物 (59人、8.6%)	心疾患 (40人、5.8%)	肺炎 (35人、5.1%)
5-9歳 (391人)	悪性新生物 (84人、21.5%)	不慮の事故 (68人、17.4%)	先天性、変形及び染色体異常等 (32人、8.2%)	肺炎 (19人、4.9%)	心疾患 (16人、4.1%)
10-14歳 (440人)	悪性新生物 (95人、21.6%)	自殺 (71人、16.1%)	不慮の事故 (66人、15.0%)	先天性、変形及び染色体異常等 (27人、6.1%)	心疾患 (19人、4.3%)

(備考) 1. 厚生労働省「人口動態統計」2016年の「性・年齢別にみた死因別数（死亡数、死亡数（%））」により作成。
2. 6歳は「乳幼児突然死症候群」を除く。それ以外は「死因別に用いる分類項目」に基づく。
3. 「心疾患」は「心臓病」「脳血管障害」「呼吸器系」「消化器系」「泌尿器系」「生殖器系」「内分泌系」「免疫系」「感染症」「悪性新生物」「糖尿病」「高血圧」「肥満」「アレルギー」を含む。
4. 「不慮の事故」は「自然死（心臓病、脳血管障害、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系、感染症、悪性新生物、糖尿病、高血圧、肥満、アレルギー、その他）」を除く。

図表1-2-1-4 子どもの「不慮の事故（交通事故、自然災害を除く）」による年齢層別の死因内訳（2016年）



(備考) 1. 厚生労働省「人口動態統計」2016年の「性・年齢別にみた死因別数（死亡数、死亡数（%））」により作成。
2. 「交通事故」は「自然死」を除く。
3. 「自然死」は「心臓病」「脳血管障害」「呼吸器系」「消化器系」「泌尿器系」「生殖器系」「内分泌系」「免疫系」「感染症」「悪性新生物」「糖尿病」「高血圧」「肥満」「アレルギー」を含む。
4. 「不慮の事故」は「自然死（心臓病、脳血管障害、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系、感染症、悪性新生物、糖尿病、高血圧、肥満、アレルギー、その他）」を除く。
5. 四捨五入のため合計は必ずしも100%にならない。

平成30年度の子どもの事故防止の取組実績⑤

イベントでの啓発の一例

「子どもの事故防止週間」イベント

- 会場
池袋保健所 子ども事故予防センター★Kidsafe★
2018年5月22日(火)
- 内容
乳幼児健診対象者への子どもの事故予防にかかる啓発活動
保護者に向けた啓発資料(事故防止ハンドブック等)の配布
子ども安全メールやツイッター登録への呼びかけ



夏休み2018宿題・自由研究大作戦

- 会場
東京:(東京ビッグサイト) 2018年7月26日(木)~28日(土)
大阪:(インテックス大阪) 2018年8月2日(木)~3日(金)
仙台:(夢メッセみやぎ) 2018年8月9日(木)~10日(金)
- 内容
ミニセミナー・パネル等の展示・新聞づくり

名古屋市消費生活フェア☆2018

- 会場
オアシス21 2018年11月17日(土)
- 内容
ステージイベント・パネル等の展示

平成30年度の子どもの事故防止の取組実績⑥

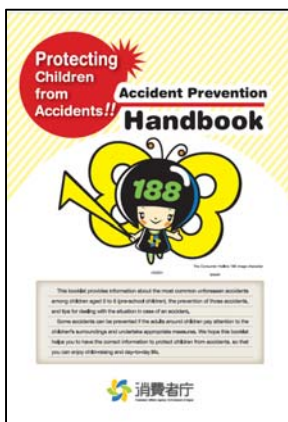
子どもを事故から守る！事故防止ハンドブックの活用

「6歳以下の未就学児に予期せず起こりやすい事故とその予防法、対処法のポイントをまとめたもの」

- ・消費者庁ホームページからのPDFデータ出力や、地方公共団体中心に冊子版を配布し活用
- ・平成30年度は英語版・中国版を作成し、消費者庁ホームページにデータを掲載



日本語版



英語版

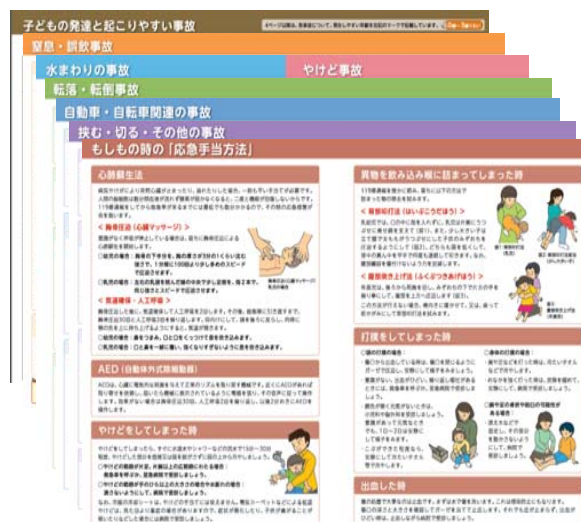


中国語版

- ・消費者庁ホームページにPDFデータ掲載
- ・全国の地方公共団体を中心に、冊子要望を受付
- ・冊子約**18万部**を発送済み(平成31年3月現在)

＜地方公共団体での使用例＞

- ・地域内の保育園、幼稚園での配布
- ・子育て関連の催しでの配布
- ・消費者センター等での窓口設置
- ・育児相談時の活用



消費者月間記念事業の子供を対象とした催しでの配布(高松市)



2018消費生活展ミニ講座(港区)

平成30年度 新未来創造プロジェクト（徳島）実績①

平成29年7月に開設した「消費者行政新未来創造オフィス」では、徳島県の協力の下、これまで取組が十分でなかった理論的・先進的な調査・研究、全国展開を見据えたモデルプロジェクト等を行っている。
徳島県では関係者による「子どもの事故防止プロジェクトネットワーク会議」を組織し、連携しながら啓発活動を行っている。

○ 子どもの事故防止プロジェクトアンケート調査実施結果の公表

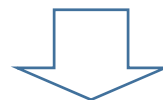
「子どもの事故防止プロジェクト関係者ネットワーク会議」の構成機関協力の下、「平成29年度の子どもの事故防止調査」結果の公表及び調査結果に基づく啓発活動を実施

- ・調査実施期間 平成30年1～2月
- ・調査対象者

	配布先	有効回答数
0歳～6歳児の保護者	11,644人	2,752人
出産予定夫婦	190人	91人
保育士・保育従事者	179人	157人
合計		3,000人

合計約3,000人から回答

知識や意識、行動等を把握すると共に、啓発等に積極的に取組む徳島モデル事業の重点地域※と他の地域との比較や父母等の属性比較の分析等を通じ、今後の政策に活用。 ※鳴門市、阿南市、美馬市、藍住町

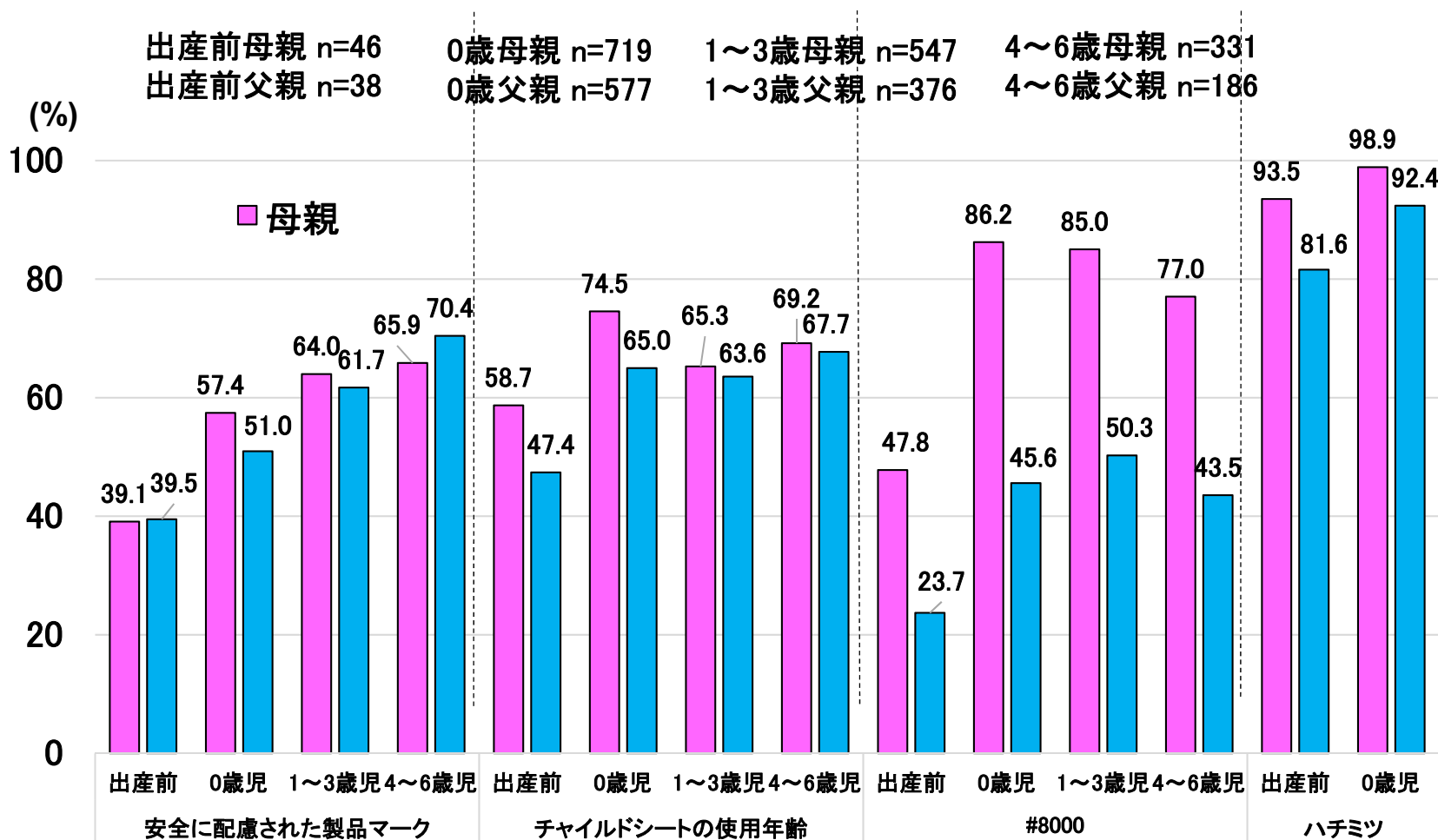


平成30年5月23日に公表

https://www.caa.go.jp/future/project/project_006/

平成30年度 新未来創造プロジェクト（徳島）実績②

調査報告の一例 子どもの事故防止に関する正答率



- 父親より母親のほうが正答率が高い傾向にあり、特に＃8000は父親と母親で正答率に大きく差があった。

➤ 保護者、子育て支援者等への啓発活動の実施 イベント、研修会等で調査結果を活用し啓発

【おぎゃっと21での啓発（徳島県下最大の次世代育成支援イベント）】



徳島県内で実施した「子どもの事故防止調査」の結果を踏まえた啓発パネル展示



窒息事故等の未然防止について啓発するコーナー



キッズデザイン賞受賞作品の展示

【子どもの事故防止プロジェクト研修会（母子保健関係職員、一般保護者対象）】



消費者庁消費者行政新未来創造オフィスによる「子どもの事故防止プロジェクトの取組紹介」